

令和4年度事業報告書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

NPO法人ミライノタネ

・理事会（開催年月日 令和5年4月29日）

開催場所 島根県鹿足郡津和野町河村1159-8

出席者数 5 (理事人数 5)

議決事項の概要 令和4年度事業決算、次年度の事業計画について

役員報酬の変更、及び正会員の入会金と年会費の変更について

・総会（開催年月日 令和5年4月29日）

開催場所 島根県鹿足郡津和野町1159-8

出席者数 9名 (うち表決委任者 3名) / 正会員数 9名

議決事項の概要 令和4年度事業決算と、次年度の事業計画について。

役員報酬の変更、及び正会員の入会金と年会費の変更について

1 事業の成果

令和4年度よりしまね環境保全活動助成金を活用した「地域の資源の循環を体感しよう！」では、令和4年11月から令和5年3月にかけて森林が町の9割を占めるこの町だからこそ森林資源を活かした生活スタイルや教育環境づくり、そしてゼロカーボンシティ宣言をした地方のモデルとなれるよう分かりやすく伝わりやすい教育プログラム作りに取り組み始めた。

まず、10月にミライノタネが提供する会員制自然教育プログラム「ウッキーメンバー」を募集した。これは定期かつ継続的な活動を通して子どもたちの成長を保護者と共に共有し、一緒に子育てをする感覚を作っていくたい思いと、イベントごとの参加者募集のコストを削減し自然体験プログラムのさらなる可能性の開発をするためであった。だが年会費の高さや活動の分かりにくさからか会員は集まらずプログラムの練り直しを余儀なくされた。次年度以降、どのような形式がより参加者にとって魅力あるものとして提供できるのかを模索し再提案を検討していく。

11月には日帰りの「秋のきこりキャンプ」と題し、赤木のクヌギ山でどんぐりを拾い植え、保護シェルターをかけて育てる流れを体験し、またすでに成長したクヌギの木を冬場に原木シイタケの植菌をするほど木として準備するため伐採も体験できるプログラムを企画しウッキーメンバー募集のチラシの中で案内をしていたが、こちらも参加者が集まらず、法人内のメンバーで実施することとなった。

3月25-26日では「もりもりクエストキャンプ」と題し、1泊2日の森林資源の循環を体感するキャンプを実施した。このキャンプはウッキーメンバー募集で一度は案内しているものの当該チラシでは魅力が伝わっていないと判断し、新たにチラシを配布したところ、20名を超える児童保護者の参加があった。

以下はしまね環境保全活動助成金を管理運営するしまね自然と環境財団に向けて提出した実績報告書より抜粋して掲載する。

当初 11 月と 2 月の 2 回にわたって事業を行う予定だったが、コロナの影響でもあり、11 月の参加者は集まらず、2 月の事業も 3 月の春休みに延期をして 11 月の内容も含めて実施した。

11 月は参加者が集まらなかつたので、NPO のメンバーで津和野町渓村にあるクヌギの林にどんぐりを植え、シェルターを設置した。

2 月のキャンプもコロナの感染者が増加傾向の中だったこともあり、3 月の春休みに延期し実施となつたが、こちらは子どもの参加者が定員 20 名の枠がすぐに埋まり、保護者の参加者希望者も 3 名申し込みがあつた。

3 月 25-26 日の日程で実施した「もりもり（森林守り） クエストキャンプ」は

1日目		
日原駅	8:06	汽車希望者集合（参加者・スタッフ）
分遣所	8:30	スタッフ集合
	8:45-9:00	参加者集合
	0900-0920	はじまりミーティング
徒歩移動	0920-0940	移動
ホダ場付近	0940-1050	木の伐倒見学
	1050-1120	しいたけ収穫
発電所（バス移動）	1120-1230	木質バイオマスガス化発電所見学
グランドゴルフ場付近	1230-1330	昼食（シシ肉と原木しいたけのBBQ）
ホダ場付近	1330-1500	チェンソー体験 / しいたけ植菌
徒歩移動	1500-1530	徒歩移動
キャンプ場	1530-1730	森林関係者トーク
	17:30-18:30	テント張り
	18:30-19:30	夕食（鶏肉と春野菜の鍋）
	19:30-21:00	ナイトプログラム
	21:00-21:30	就寝準備
	21:30	就寝
	2200-2300	スタッフミーティング・シャワー

2日目		
キャンプ場	0630-7:00	起床
	7:00-8:30	朝食（ご飯、味噌汁、野菜炒め）
	8:30-0930	テント片づけ・荷物整理
友好の森	0930-12:00	森林での自由遊び・植樹
キャンプ場	12:00-14:00	ランチ交流会（カレーライス）
	14:30-15:00	かたづけふりかえりミーティング
	1500	参加者解散1
分遣所	1515	参加者解散2
日原駅	1530	参加者解散3（益田行）
	1643	参加者解散4（新山口行）スタッフ解散（新山口行）
	1717	スタッフ解散（益田行）

1 日目は、集合場所（日原分遣所）から歩いてくぬぎの苗を育てている畑を見学し、その後枕瀬山ふもと（小杉グランドゴルフ場付近）に徒歩で移動し、改めてこのキャンプで「木を植える→育てる→収穫する→使う→」というサイクルが「なぜ山を守ることになるのか？」を考えながら過ごしてほしい、というこのキャンプの目的を共有し、その後、木の伐採を見学＆体験。林業

家の方々に伐採の注意点や木の重さなどを教わりながら、受け口の作り方を知り、子どもたちはロープで引っ張り木を倒した。木を切ることの意義と大変さ、おもしろさを体感することができた。その後倒した木をチェンソーで玉切りし、子どもたちは自分で持て降り、バイオマス発電所に向かった。バイオマス発電所ではまず、木材をチップにする工程を、目の前で大きな丸太がチップになっていく様を見たり、チップになった木を触ったり、チップの山を登って親しんだりして学んだ。チップヤードを運営する(有)石州造林の方からチップにする工程の設備について教えてもらい、詳しく知ることができた。また発電所ではチップが乾燥されたたくさんの発電機が並ぶ様を見学し、(株)フォレストエナジーの地域エネルギーアドバイザーである久保さんから、津和野町が木材を資源として活用しようしていること、なぜ木なのか、他のエネルギーと何が違うのか、ということも学んだ。枕瀬山のふもとに戻り、椎茸のほだ場で収穫をした後、お昼ご飯にはこの山で育ったイノシシ肉と採れたての原木シイタケのBBQを楽しんだ。昼食後グループに別れ、薪割り、丸太をチェンソーで切る、原木シイタケの植菌を時間ごとに入れ替わりながら体験した。その後、枕瀬山キャンプ場に移動し、4名の講師の方（くぬぎを育てている水津さん、バイオマス発電所の久保さん、自伐型林業家の原田さん、津和野町農林課の岡本さん）を迎えて、森林関係者トークを行った。この時間では、ゲストの森林との関り方や熱い想いを聞いた後で、4グループに分かれてゲストといろんな話をする時間を作り、子どもも大人も一緒に森林を守るということはどういうことか、何ができるか、ということを考える時間になった。森林関係者トークが終了すると、保護者の参加者は帰宅、子どもたちはテントを張り、薪を割ったり、薪の火で夕食作りと一緒にしたり、走り回って遊んだり過ごした。

2日目は、朝もみんなで薪を使って朝食づくりをし朝食をとった後、テントを片付け、枕瀬山友好の森に移動。友好の森ではクヌギの植樹を行い、各グループで一本のクヌギの苗を植え保護シェルターを設置した。その後友好の森でまた遊び、枕瀬山キャンプ場に戻りみんなで昼食を取り、ふりかえりミーティングを行った。ミーティングでは、「森林を守るというはどういうことだった？」と問いかけると、「木を切って、使うこと」という声がたくさん聞こえた。学校の授業がキレイ、楽しくないと話していた子が多くいたが、「このキャンプもいっぱい学んだことがあったと思うけどどうだった？」と問いかけたところ、「楽しかった」とみんなが答えた。子どもたちが森林資源に関心を持ち、楽しみながら学べる環境がしっかりと作れたのではないかと思う。

参加者の事後アンケートでは、15件の回答のうち、子どもの満足度は5段階評価の5をつけた回答が14件（93.3%）、保護者の満足度は6件の回答すべてが5（100%）となった。また、このキャンプのNPS値は53.3となり高評価となった。

「参加してよかったですこと、印象に残るエピソード」という自由記述では
①木を切るのに、協力してやった、と嬉しそうに話していました。自分で！が強い子から、協力という言葉が笑顔とともに出てくるとは!!夕ごはんのとき、わざわざ箸を置いて、全身使って再現してくれました。まだまだ話し足りないようでしたが、今日はエネルギー一切れで寝てしましました。

②子供だけで、キャンプに参加できたのが親としては良かったです。本人は、いかにご飯が美味しいかったか、何をどれだけ食べたのかを熱く語っていました。特にしいたけはみずみずしく、食感も良く、今まで食べてたのと違うと感動していました。薪割りは、本人がやってみたいと言つていただけあり、どんな道具を使い、どんな風にすれば、簡単に薪割りが出来るのかを習得したようでした。自分で参加を決めて、自分でやりたいことを楽しみながら出来たので、良かったと思います。夏も参加したいそうです。

③木の伐採や植樹をした体験したことで森に興味を持った様で自然を守る為に何をしたらいいかを考えていたので驚きました。

④テントで寝るのが初めてで、寝袋も初めてでした！帰って来てから、寝る前に話を沢山してくれて、テントの中で寝る前に大根ごっこをしたと思い出し笑いをしながら話してくれました。とても楽しそうでした！

⑤BBQ とかバイオマス発電所などいろいろ体験できて楽しかったです。友だちと森での自由遊びでロープにぶら下がってはしゃいで楽しかったです。

⑥全部。

⑦鬼ごっこで勝ったこと。寝袋が温かかったこと。

⑧学校の友人とは違う友達と関わる事で、気づくことや成長する事があったのではないかと思います。前回のキャンプと比べて上の子はみんなに自分の意見をはつきり言えるようになっていました。弟はみんなと関わる事が出来るようになっていました。成長を感じる事ができました。弟は夜眠れず大人の輪に入れてもらつたようでお世話になりました。

⑨娘が参加させていただきました。体験したこと、バイオマス発電所のしくみ等全てを帰宅してすぐに、事細かに嬉しそうに教えてくれました。バイオマス発電所について、資料等何も見ずに、使用している機器や流れをノートに細かく書いて説明してくれました。とても細かいところまで説明してくれる姿に驚きました。実際に目で見て、お話を聞いて、とても深い学びになったのだなあと感じました。薪割りがとても楽しくて、何十分もしていたようです。その中で掴んだ自分なりのコツを一生懸命教えてくれました。椎茸も自分で収穫して、自分たちで起こした火で焼いて食べて、とても美味しかったようです。猪肉も初めて食べ、美味しいとびっくりしたとお話ししていました。一泊二日の短い時間ではありましたが、普段の生活ではなかなかできない体験がギュッと詰まった濃い楽しい時間だったようです。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました！

⑩一人で参加させましたがトモダチができたり、スタッフの方とも仲良くなれたみたいで、貴重な体験ができたと思います。

⑪子供に新しく友人ができしたこと

⑫友達になれた子がいてよかったです。みんなで遊んで楽しかった。発電所で仕事をしたい。

⑬高校生や大学生のスタッフも参加されていて、息子にとって、とてもよいロールモデルになったようで、自分も高校生になつたらみずきくんのようにやってみたいと言っていました。また、林業のお話もとても興味深かったです。将来は林業をやると言っています！家中や学校だけでは学ぶことができないたくさんことを2日間で経験できてとてもよい時間となりました。ありがとうございました。

といった子どもにとっても保護者にとっても、森林資源の循環が学べかつ学校とは違う自然の環境だからこそ育つ心があることを体感できる場になっているのではないかと感じられた。

引き続き、森林資源の循環と脱炭素化を実現する津和野町の教育プログラムとして深めていきたいと思う。

<自主事業について>

自主事業として、夏休みの期間中に以下の事業を実施した。

①アユの友釣り体験 7月24日（日）、8月13日（土）

②1泊2日キャンプ 7月29日（金）～30日（土）、8月10日（水）～11日（木・祝）

③2泊3日キャンプ 8月2日（火）～4日（木）

④日帰り親子川遊び 8月14日（日）、8月20日（土）

また、益田市青年会議所の依頼で「このまちまるごと体験博」に協力をし、体験プログラム「川遊び教室」を提供し実施した。

2 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施事業の日時、場所、従事者的人数	受益対象者の範囲及び人数、評価	事業費の金額(単位：千円)
①子どもの教育・子育て環境の充実を図る活動 a)森林資源循環	森林資源の循環を感じよう	令和4年11月26日、高津川・枕瀬山キャンプ場のべ20名	鹿足郡、益田市、山口市の小学生と保護者30名	785
b)夏休み自主事業	キャンプ事業 鮎の友釣り体験 川遊び	津和野町瀧元・枕瀬山のべ90名	鹿足郡、益田市、浜田市、山口市の小学生とその保護者 のべ170名	892
c)このまちまるごと体験博	川遊び教室	令和4年7月31日 日原地域高津川川原6名	鹿足郡、益田市、小学生20名	0
②学生・若者・子育て世代のキャリア形成を支援する事業	キャンプ事業での高校生・大学生・若者等のボランティアスタッフ募集	令和4年7月24日～8月20日間 でのべ11日間 令和5年3月25日-26日 のべ100名	近隣高校生、県外大学生、町内若者 のべ60名	0
③地域の資源、特色を活かしたイベントの開催等により観光や中山間地域の発展を図る事業 a)森林資源循環 b)夏休み自主事業 c)このまちまるごと体験博		①に同じ		
④その他目的を達成するために必要な事業		今年度は実施せず		